

『だれかの笑顔のために』

6月は、「心の絆を深める月間」

見えない誰かのための「てまえどり」

最近、コンビニ等でみかける「てまえどり」の表示。農林水産省は、食品ロス削減に向け、一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会、消費者庁、環境省と連携して、小売店舗が消費者に対して、商品棚の手前にある商品を選ぶ「てまえどり」を呼びかける取組を行っているのだそうです。



ある会報に載っていた文章です。

スーパーに賞味期限が五日後の牛乳と六日後の牛乳が並んでいると、日本ではほとんどの人が賞味期限の長い方を買っていく。より新鮮であり、保存も長く持つからである。しかし、アフリカの小さな村では、村人たちは賞味期限の切れそうなものから買っていくのだという。貴重な食べ物を捨ててはいけぬ。だから賞味期限の迫ったものを自分が買って、より新しい食べ物は仲間たちに残すのだ。仲間への思いやりのある消費、そして食べ物の総量が乏しいことを知っている消費。日本の私たちの消費に他者はいない。仲間はいない。まして、残された賞味期限の短い牛乳の行方を案じたり、考えたりする人はいない。もののあふれる日本では、仲間の顔の見えない寂しさが人々をますます孤独な消費に走らせている。本当に豊かな社会とは、どちらの国のことだろうか。

食べられるのに捨てられてしまう食品を「食品ロス」といいます。日本の食品ロスは年間約472万トンになり、国民全員が毎日おにぎり1個を捨てている計算になるそうです。これは、世界の飢餓に苦しむ人々に向けた食料援助量（約480万トン）とほぼ同じ量になります。

2021年、世界の人口の約10%にあたる8億2800万人が飢餓状態にあると報告されています。

その一方で、先進国では余った食料がまだ食べられるのに捨てられているのが現状です。日本の食糧自給率は先進国の中でも低く（カロリーベースで約38%）、多くの食べ物を海外からの輸入に頼っています。しかしながら、多くの食品ロスを生み出しているという状況は、社会全体で解決していかなくてはならない課題の一つです。その解決策の一つが「てまえどり」なのですね。

修学旅行での出来事



毎年、修学旅行の引率をします。修学旅行では多くの一般の観光客の方と一緒にあります。ある学校での修学旅行での出来事です。昼食会場に入ろうとしていたとき、私たちと同様にそのお店に入ろうとしていた一般のお客様がいらっしゃいました。私たちは列をなしてその昼食会場に入ろうとしていたのですが、一人の子どもが立ち止まり、「お先にどうぞ」と一般のお客様のための入り口の通路をあけてくれたのです。自分より一般のお客様を優先するその心配りに心があたたかくなりました。

自分のことだけを考えるのではなく、誰かのために行動できる、心配りができる子どもたちに育ってほしいと願っています。

「お先にどうぞ」 言えていますか？

